

後世に伝える熊本県内の「戦争遺産」  
その記録と検証

「戦争の実相」と「平和の大切さ」を未来につなぐ!!

『戦後75年 平和を祈って くまもとの戦争遺産』

戦後75年間、平和を持続した節目となるこの年に『くまもとの戦争遺産』を上梓でき感慨無量です。

戦後60年となる2005年、私の住む地元玉名で市民グループ「玉名荒尾の戦争遺跡をつたえるネットワーク」を発足させました。地域に残された近現代遺跡である玉名の「陸軍大浜飛行場」や荒尾の「東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所」の歴史と戦争実相を、残された遺構や当時の証言等から掘り起こそうと見学会や例会を重ねてきました。

この活動は、その後「熊本の戦争遺跡研究会」の仲間との『子どもと歩く戦争遺跡 県北・県南編』作成、県内戦争遺跡を網羅した『戦後65年 熊本の戦争遺跡』刊行へとつながりました。また、調査地は県内全域・九州各地に広がり、調査の対象も戦時資料・航空資料等にもおよんだことから、会名称を現在の「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」に改めました。

個々の戦争遺跡内容については、菊池・荒尾・合志・人吉球磨の各地で生まれた戦争遺跡保存諸団体と連携しながら、県内戦争遺跡調査内容の精度を高め深化させました。

さらには、流星風防をはじめとする木製プロペラ・墜落零戦等の航空資料、M76焼夷弾等の爆弾資料、故重松瑞男大尉アルバムの戦時写真資料、米軍空撮での県内各地飛行場や空襲写真資料、さらには第二十七振武隊員として沖縄特攻で出撃された原田菜さんの絶筆等の特攻隊員資料、米海兵隊16mm映像・スチール写真の調査へと広がりました。その間、全国の研究者の方々から、多くの資料提供やご助言をいただきながら、調査協力体制・連携を深めました。

また、2019年8月には第23回戦争遺跡保存全国シンポジウムを、熊本で開催する事ができました。近年全国では活用や保存方法をめぐり幾つかの課題や問題点が指摘されています。それは旧日本軍の顕彰を目的とするような「軍事博物館」的な資料館の登場、戦争遺跡が形成された過程や歴史的背景を無視し、戦争の一面を切り取って美化し肯定的に描く手法が見られる展示、解説文で加害の文言を隠ぺいし、事実を歪曲する事象、観光での集客を目的とする戦争遺跡資料館の登場等です。

大会アピールとして「戦争遺跡の保存と活用は、戦争の加害・被害・抵抗の側面から戦争の実相と悲惨さを次世代に伝え、同時に東アジアの歴史の中に位置づけられ共有されるものでなければならない」としたことで、熊本の現状と課題を示す事ができた事は、大会開催の大きな成果となりました。

本大会は熊本での戦争遺跡研究・保存の大きな一歩でしたし、私にとっても近現代考古学研究の原点を再確認する機会となりました。

末尾になりましたが、今回の上梓では多くの方々のご支援で本書を作ることができました。ご芳名等を記し、感謝の意を表します。

これからも近現代考古学・戦跡考古学の視点で、戦争遺跡・遺構の調査・検証を進めます。そして戦争を多様な視点や角度から見続けながら、「未来に継承する戦争遺産」として残していく活動をさらに進めていきたいと思えます。

2020年8月

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

代表 高谷 和生